

消えた 15 秒**準備報告時間 神領運輸区(運転士)**

乗務開始箇所 又は乗務終了箇所	乗務開始前	乗務終了後			
	出発点呼有り	点呼なし		終了点呼有	
	乗継ぎ又は便乗	乗継ぎ	便乗	乗継ぎ	便乗
各ホーム	36分	14分	13分	19分	18分

上の表は、今から10数年前に乗務員勤務改正の時に提案されものです。
「徒歩の時間」「点呼をする時間」「準備する時間」など、神領運輸区からホームまでにかかる時間を決めてある表です。

乗務終了後の「点呼なし」の欄は列車を降りて到着点呼を行う時間までにかかる時間。「終了点呼あり」の欄は徒歩の時間があり、手帳などを整理する時間5分が加算されています。この二つの欄の乗継ぎと便乗には1分の差があります。乗継ぎの場合は時刻表を外したり、時計をかたづけたり、乗継ぎをする時間が便乗よりも1分余分にかかるということで差をつけています。

さて、ここで問題になるのが、今は乗継ぎが1分15秒かかっている現実があるということです。この15秒はICカードの導入にあたり加算された乗継ぎ時間です。当然14分が15分に19分が20分に変更されなければなりません。しかし、会社は時間を変更していません。つまり15秒がどこかに消えてしまったのです。

因数分解はできるけど足し算と引き算ができない運用課

さらには、神領駅の橋上化により一方的に指定通路が変更されました。電車から降りて歩いて運輸区に着くと点呼時間になっている場合もあります。駅の改札口でお客様が駅員と話をしていて改札が通れないときもあります。雨が降っていて足下が悪く徒歩に時間がかかる場合もあります。

5～7分余分に時間がかかっているにもかかわらず、準備報告時間が増えていません。余分に時間がかかっているのだから、以前の準備報告時間に足し算をすることが普通の考え方です。運用課はどうも小難しい計算はしているようですが、こんな簡単な足し算は不思議にできていません。

私たちは正当な準備報告時間を付けるように要求します。